

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No175

新著の紹介(コーナー)

『変動する総合・探究学習ー欧米と日本 歴史と実践』
伊藤実歩子先生(立教大学文学部教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)



伊藤実歩子

いとう みほこ

立教大学文学部教授

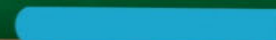
京都大学大学院教育学研究科修了。博士（教育学）。甲南女子大学人間科学部准教授を経て、現在に至る。2021-22年ウィーン大学大学院教育学研究科客員研究員。



『戦間期オーストリアの学校改革—労作教育の理論と実践—』東信堂（2010年）

『変動する大学入試—資格か選抜か ヨーロッパと日本—』大修館書店（2020年）

『変動する総合・探究学習—欧米と日本 歴史と現在』大修館書店（2023年）



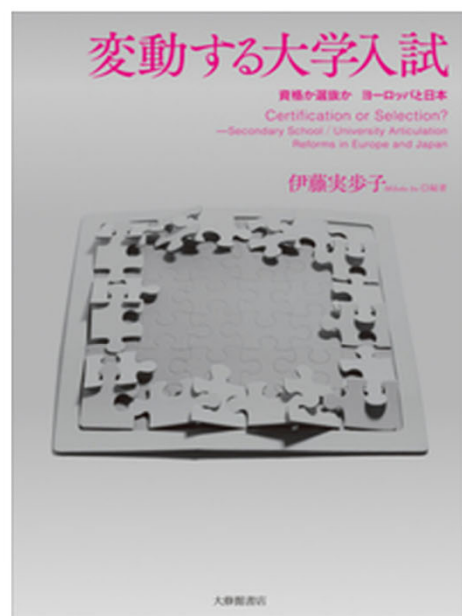
【新著紹介】

伊藤実歩子編著

『変動する大学入試－資格か選抜か ヨーロッパと日本』
(大修館書店、2020年)

伊藤実歩子編著

『変動する総合・探究学習－欧米と日本 歴史と実践』
(大修館書店、2023年)



日本標準ウェブサイトで連載



<https://www.nipponhyojun.co.jp/blog/kyoiku/detail/517/>

それではご覧ください

【新著紹介】

伊藤実歩子編著

『変動する大学入試－資格か選抜か ヨーロッパと日本』
(大修館書店、2020年)

伊藤実歩子編著

『変動する総合・探究学習－欧米と日本 歴史と実践』
(大修館書店、2023年)



目次

1. 『入試本』出版時の背景
——とん挫した記述式問題の導入
2. ヨーロッパと日本の大学入試制度比較
3. 『入試本』から『総合本』へ
4. 世界の総合・探究学習
5. 日本への示唆があるとすれば？

1. 『入試本』出版時の背景——とん挫した記述式問題の導入



- 2013年～ 高大接続改革／大学入試改革
- 2019年11月 英語民間試験活用の見送り
- 2019年12月 共通テストにおける記述式問題導入の見送り
→ 【理由】 客観的な評価ができない

<それでいいのか？>

→教育というのはどこもナショナルな議論に陥りがち。特に入試改革は困難。国家に貢献する人材（エリート）を育てる場であった歴史／文化。

→連載『ウィーン・飛ぶ教室』

<https://www.nipponhyojun.co.jp/blog/kyoiku/detail/517/>

2. ヨーロッパと日本の大学入試制度比較



(1) 日本との制度比較

ヨーロッパ：「資格」試験の国	日本：「入学」試験の国
中等教育修了資格試験（アビトゥア、バカロレア、Aレベル、マトゥーラ...） ：学生が大学を選択する	入学試験：大学が学生を選抜する
生涯有効	当該年度のみ有効
全国統一型、学校単位型、ミックス型	一般入試、AO入試、指定校推薦、内部進学、スポーツ、帰国子女、公募制推薦...
多様な試験方法 （記述試験、口述試験、探究学習...）	多肢選択、穴埋め、正誤、短答式
日常の学業成績重視、再試験あり	一般入試：一発勝負（ご破算型：竹内洋）
留年、ドロップアウト	留年ほぼなし、浪人

2. ヨーロッパと日本の大学入試制度比較



(2) ヨーロッパも入試に困ってる？

学校間格差、地域格差、学力低下、大学進学者急増（未修了者多数）

2000年以降から改革に着手

←EUの枠組み

←PISAの影響（コンピテンシーに基づいた教育）

(3) オーストリアの中等教育修了資格試験（マトゥーラ）改革

学校ごとの試験⇒一部統一試験導入

探究学習 + **記述試験**（3教科統一試験+1教科） + **口述試験**（3or2教科）

*1：4～6万字、プレゼン、ディスカッション（1年間）

*2：ドイツ語（300分）外国語（270分）数学（270分）

3. 『入試本』から『総合本』へ

(1) 中等教育修了資格試験における総合・探究の必修／選択科目化
オーストリア、イギリス、イタリア、スウェーデン...

(2) 21世紀の総合・探究学習は中等教育段階でブーム
1910-20年代：デューイ、ケルシェンシュタイナー、大正自由教育
→初等教育に限定。教科分立の中等教育には浸透せず。

(3) ジェネリックスキルの重視
レポートの型
ルーブリックで評価

4. 世界の総合・探究学習



(1) 世界の総合・探究学習

スウェーデン：アントレプレナー教育

オーストラリア：探究における型の習得の重視

イギリス：EPQ、探究学習のプロセス（プロダクション・ログ）を評価

(2) ハイスティクスな試験における総合・探究学習の課題

コピー、代筆、形式偏重

点数の取りやすいテーマに偏りがち（イギリス）：対策可能

4. 世界の総合・探究学習



(3) 総合・探究学習の共通する課題

- ①総合・探究専門の教師はいない。教員養成の問題。
- ②総合・探究学習が抱える問題は20世紀から変わっていない
←教科の知識や概念を習得できない？
- ③質の深まりを求めがち（日本）
- ④理数、英語、ビジネス（起業や企業とのコラボ）に偏りがち
←人文学の軽視？

5. 日本への示唆があるとすれば？



(1) 日本的な公平信仰からの脱却

←結果に対する異議申し立て

←入試方法の変更に対する子どもたちのデモ

(2) 複数のエージェントで評価する仕組み（高校、大学、外部機関）

* オランダ：英語のスピーキングは学校で、ライティングは外部機関（オランダ）

* イギリス：外部試験機関で試験官／学校で教員を訓練する = 「手間をかけた評価」

* スウェーデン：教員免許は信頼できる成績を付ける能力の証明であるという認識

(3) 多様な評価方法の導入、学力不問の入試方法の見直し

口述、記述（長時間）、探究学習、マークシート...



立教大学
RIKKYO UNIVERSITY

